

自治労全国一般評議会

全国一般石川地方労組大同テクノ分会 分会長／花澤尚巳



違法許さない！ 起つ非正規労働者

本工と大きな格差

私たちは、石川県加賀市にある大同工業(株)の100%出資子会社である(株)大同テクノに勤めています。自動車やバイクのチェーンなどを製造しています。

私たちテクノ従業員は「派遣」あるいは「請負」という名目で、親会社・大同工業の中で、親会社正社員(本工)と一緒に同じ仕事をしています。賃金は本工の概ね7割であり、賃

上げは本工の約半分、一時金は基礎額が低いにもかかわらず本工と同月数など「隠された公式」に基づいた賃上げ：一時金になっています。本工と同じ場所で同じ仕事をしていても、賃金の格差は縮まるどころか、年々拡大していきます。

大同テクノには労働組合もなく、このままでは生活は苦しく、結婚もできない、未来も見えないと思います。全国一般に相談に行き、08年7月に労働組合を結成しました。多くの仲間との共感を呼び、50名の組合加入が

実現しました。

しかし加賀市は大同工業の企業城下町であり、企業横断的な全国一般に対して「よそ者」「企業秘密が漏れる」と排除し、組合加入者には陰に陽に圧力がかかり、十数名にまで減らされました。

私たちは本工としての地位確認、本工との賃金格差の解消などをはじめとした要求を提出し、春闘などと合わせて会社と交渉を行ってきました。しかし、会社は団体交渉には応じますが、本工としての雇用や格差解消には一切応じませんし、親会社は団交にさえ出てきません。

さらに、会社は日常の組合活動を認めず、私たちは職場での集会やピラマキ、組合ニュースの掲示など、基本的な組合活動が今なおできない状態です。

ここに至り、私たちは09年3月に、本工としての雇用や格差解消などを

求めて裁判闘争に打って出しました。

記者会見も行い、テレビでは「石川でも労働者が立ち上がりました」と紹介されました。

職場でも、本工や組合を脱退した人など数名から「やったな」「組合に戻れるか」「やっぱりすごいな」と連絡が入りました。

現在まで五回の裁判が開かれています。争点整理の段階で、本格的にはこれからです。

違法な派遣・請負の実態

大同テクノは大同工業の100%子会社であり、「派遣」といっても派遣先は大同工業に限られています。違法な「専ら派遣」です。就業条件の明示もありません。1年以上、あるいは3年以上、同一部署で働いている人もいます。「請負」も、実態は本工と一体となった仕事です。親会社の指揮命令下で働いてお

り、いわゆる偽装請負です。

職場の実態は、「派遣」「請負」の区別もあいまいなまま、本工とテクノ従業員が混然一体となって働いているのであり、派遣法違反というばかりでなく、職安法で禁じられた労働者供給事業が行われていると言えます。

製造業への派遣が解禁されたのは04年ですが、全国の多くの製造業同様に、大同工業でも、それ以前から違法な派遣、偽装請負が大々的に行われてきたのです。

このような違法でデタラメな状態になったのは、本来は本工として雇うべき労働者を、子会社の「派遣」「請負」労働者とすることで、本工より大幅に安価に買い叩くためです。さらに、組合のない子会社従業員とすることで、いつでもクビを切れる状態にしておくためにほかなりません。

そもそも派遣法自体が、経営者にとって、安く使っているでもпой捨て可能な労働者を作るための法律です。08年秋以降の大量の「派遣切り」「非正規切り」は、そのことをあからさまに示しています。

私たち分会の闘いは、多くの方に支えられて成り立っています。それだけでなく、他の職場の仲間と交流することで、視野が広がりました。全国一般石川の中央自動車学校の闘いに触れるなど、労働者の団結、職場を越えた連帯の大切さを教えてもらいました。

自分たちだけではありません。そして正規も非正規ありません。すべての労働者が生活の苦しさに直面し、雇用不安にさらされています。私たちは、今なお経営者の解雇や賃下げに涙を吞んでいる多くの仲間、とりわけ非正規の仲間の先頭で闘いつづける決意です。